# 体験通し自身を育てる

中学校の修学旅行は、見学型から体験型への移行が進んでいる。学校を離れた体験先で待っている出会いは、日常と異なる社会の一面を生徒たちに垣間見せる。それは、多感な時期に新鮮な驚きを与えるとともに、時にはエポックを画す自己発見にもつながる。印象が鮮烈であればあるほど、体験をさせる意味や目的が重要なカギとなる。体験型修学旅行は、生徒、学校、受け入れ地が三位一体で作り上げるもの。いま、学校が求め、実施している修学旅行の実態をリポートする。

## 三条市立第一中学校
大阪・京都・奈良　2泊3日
15年4月　実施

## 地元と関西を比べて学ぶものづくりと働くこと

新潟県の三条市立第一中学校（前澤正人校長）は同市中心部に位置し、市内で最も生徒数が多い中学校だ。同市の進める小中一貫教育の方針を受け、2014年から、新設された嵐南小学校との一体型校舎で教育活動を行っている。両校は体育館や教職員室などを共用するほか、合同であいさつ運動や授業を実施。小学生との生活により生徒たちは、年少者に対して思いやりを持って行動したり、中学生としての自覚を強くしたりと、さまざまな刺激を受けている。

同校では例年、京都、大阪方面への修学旅行を実施している。「関東に比べ、関西はアクセスの問題もあって簡単には行けないので、生徒たちも楽しみにしている」と話すのは、3年生の担当で、今回の修学旅行の企画の中心となった佐藤典人教諭。佐藤教諭は1年生の時から総合学習を担当。小中9年間で一貫性あるカリキュラムが求められる中で、中学3年間の総合学習でも連続性のある学びを目指しており、キャリア学習、班別フィールドワークなどを組み込んだ校外研修を1、2年生で実施してきた。

今回の関西での修学旅行を計画するにあたっても、校外研修での学習の流れとつながるプログラム作りを模索。従来の修学旅行でも行っていた京都での班別研修を地元でのフィールドワークの応用、位置付けたのに加え、キャリア学習の視点を取り入れた研修を新たに組み込むことで、生徒が働くことや社会で生きることを考えられる修学旅行を目指した。

同校では3年間で、キャリア学習として進路講話や職場体験学習を実施してきた。その流れを踏まえて、関西で職業観や働き方の地元との違いに触れ、そこから働き方などについて考えを深められるような研修内容がないか、旅行会社に打診。いくつか提案を受けた中から、鍛冶職人による刃物製造など金属加工産業が盛んな三条市と、ものづくりや職人という共通点がある大阪府東大阪周辺の町工場で、ものづくり現場体験を行うことにした。

今年の修学旅行は4月12～14日の2泊3日で実施。具体的な日程は、1日目の午後が京都市内の班別自主研修、2日目の午前が東大阪でのものづくり現場体験、午後がユニバーサル・スタジオ・ジャパン（USJ）でのグループ研修、3日目の午前が奈良公園見学だ。

このうち2日目のものづくり現場体験は、各クラスを男女半分ずつ、20人弱のグループにして、10カ所に分かれて行った。アルミ部品や世界的な競泳用水着、義肢など多様な業種の工場で、作業工程の説明や講義を受けたり、作業を体験したりした。

佐藤教諭によると、三条市の場合、個人で作業している工場が中心で見学を受け入れているところが多くないため、生徒が生の作業風景を見る機会は意外に少ない。普段見ることが難しいものづくりの現場を目の当たりにして、生徒たちは真剣に見学した。「東大阪でしか見られない製造現場などを訪問できたのはもちろん、細部にまで神経を使っている現場の緊張感や職人の高い技術に間近で触れることができ、非常に貴重な体験ができた」と佐藤教諭は評価する。

旅行後には生徒一人一人が、A3用紙1枚に写真を取り入れた新聞形式のレポートを作成。「三条よりも東大阪の方が工場の規模が大きい」「表からは見えないような小さな部品一つであっても正確な技術と大きな労力でできていることに驚いた」など、ものづくり現場体験についてのさまざまな感想が見られた。

「レポートはレイアウトに工夫のあるものなど力作ぞろい。皆小さい字でたくさん文章を書いていて読みごたえがあり、修学旅行でしっかり学んでくれたと実感した」と佐藤教諭。

旅行時期が進級直後のため事前学習は2年生のうちに終える必要があったが、ものづくり体験の見学先が3月まで決まらず事前学習が思うように進まなかったり、見学の受け入れ先が当日に急きょ変更になったりするなど、初めての取り組みに苦労も多かった。ものづくり体験の見学先を人数の制約があって学校側が自由に選べなかったことや、見学先によっては体験メニューがなく製造工程の説明しか受けられなかったことは残念だったというが、生徒の真剣な様子やレポートの充実度から「3年間の総合学習の集大成的なものとして、ある程度イメージ通りの修学旅行ができた」と佐藤教諭は総括する。

同校では来年以降も、今回と同様の内容の修学旅行を実施する予定だ。

金属加工作業でネームプレート作り体験

工場の作業内容について説明を受ける

おもちゃの部品の回収風景を見学する

レポートを小学校に展示した

佐藤典人教諭

校外学習の経験を生かした班別自主研修

京言葉の講義を受けた

## 八千代市立村上東中学校
福島県・南会津　2泊3日
15年5月　実施

## 人々や自然と触れ合い自身の生き方を考える

千葉県八千代市の市立村上東中学校（伊東稔雄校長）は、「歌声」「あいさつ」「清掃」の三本柱がしっかりとできる生徒の育成を目指している。生徒たちは非常に素直で明るい。朝から学校前の公園を走る生徒の姿が見られるなど、部活動も非常に盛んだ。

今年の修学旅行は3年生が5月27日から29日までの2泊3日、福島県の南会津町で実施した。行き先が南会津町に決まったのは、3年生担当の青柳弘一教諭の思いが反映されている。

この学年が1年生時の2014年2月。2泊3日のスキー合宿「ホワイトスクール」を会津町の「会津高原たかつえスキー場」で行った。辺り一面の雪景色。子供たちはスキーを楽しみ、スキーが終わった後の雪上レクリエーションも盛り上がった。1時間の短い時間だが、「舘岩太鼓」と「ちまき作り」に分かれ、地元の人とも交流した。

1年生、2年生の時もこの学年を受け持った青柳教諭は、「何とかして南会津町のスキー場の春夏を生徒に見せたい」とずっと思っていた。そして、生徒たちに「南会津町に行ってみたいね。春や夏はどうなっているのだろうね」と何度も繰り返し言い続ける。その青柳教諭にほかの教諭たちも同調してくれて、3年生での修学旅行も同じ南会津町に行くことになった。

今回の修学旅行は、①八千代市とは異なる地域（山間部）に「住み」「生きる」人々との交流を通して、郷土・八千代市の素晴らしさを再発見する②2泊3日の宿泊体験学習を通して、学級の和・輪の大切さを体験する③集団行動やグループ活動を通して、基本的生活習慣や一般社会で役立つマナーを身に付ける―ことを狙いとした。そして、福島県の人々や自然との触れ合いを通して、自分自身の生き方について考える場と位置付けた。

参加した生徒は男女ほぼ半々の137人。5月27日の初日は、学校からバスで移動し南会津町に入る。ホワイトスクールの時と全く同じ道を行くつえスキー場で、芝生の上でのソリ遊びなどの学年レクリエーションを行った。「今回は緑一面の芝生。蝉も鳴いている。大木などの景色の記憶が残っているので、生徒たちは『ああ、ここだった』『ホワイトの時とは違うな』などと語り合っている。心に感じるものがあったと思う」と青柳教諭。

学年レクリエーションを終えた後は、廃校になった小学校の跡地での体験学習（田島焼き）。そば打ちや陶芸作り、魚つかみ、沢登りなど八つのグループに分かれて実施した。この日はペンション先の人との対面式。生徒たちが3、4人のグループに分かれて泊まるのは、南会津町の舘岩、伊南、南郷、田島の4地区にある農家34軒。顔合わせをしてから、民泊先の人に連れられて自分たちの民泊先へと向かった。

民泊先では34軒34通りの過ごし方をする。午後は生活体験学習。トマトハウスのビニールかけ、畑の耕し、馬鈴薯の植え付け、なめこの食菌など、家業を補助する。「性格が素直なので、生徒たちは『何かありませんか』と聞きながら種をまいたり草を取ったり一生懸命にお手伝いをした。経験したことがない作業なので興味、関心を持ちながらやっていたようだ」（青柳教諭）。この日は暑く、民泊先の人たちが生徒たちの仕事量に十分配慮してくれたという。

夜は夕食の料理作りや片付けの手伝いもしながら、民泊先の家の人と交流。生徒たちからすればおじいちゃんやおばあちゃんの世代で、しかも純朴な人ばかり。生徒たちは本当の家族のようにすっかり馴染んだ。

3日目の最終日は午前11時半からお別れ式をして、学校に帰着した。

修学旅行の感想文では、1年生の時と同じ南会津町だったので期待していなかったが、たくさんの自然があって感動した、といった声が多かった。「決して八千代の自然がどうのこうのではなく、八千代を知るために南会津町を知る機会にしたかった」と青柳教諭は語る。そうした感想文を目にして、再び南会津町で修学旅行を行って良かったとの思いを一層強くしたという。

そして、生徒たちにとって一番印象に残ったのは民泊先の人との触れ合いだった。「南会津町の方々が本当に優しくしてくれた。生徒たちはみんな満足していて、『また行きたいね』という言葉がたくさん聞かれた」（青柳教諭）。

同校では、狙い通り、八千代の再発見や集団生活、そして自分自身の生き方を考えながら、南会津町の人々や自然と触れ合える修学旅行になったと評価している。

民泊での触れ合い

トマトハウスの作業

沢登り体験

そば打ち体験

魚つかみ

青柳弘一教諭

水族館や海の生きものについて楽しく学べる
エデュケーショナルプログラムのご案内

**アクアミュージアムバックヤードツアー**
通常は見ることのできないアクアミュージアムの裏側をスタッフと一緒に見学し、不思議だらけの水族館のしくみを勉強します。見学後は質問タイムを設け、飼育係からの簡単なレクチャーで生徒たちの質問に答えます。

| | |
|---|---|
| 対象 | 小学生・中学生 |
| 定員 | 40名(1日4～5回) |
| 所要時間 | 約30分間 |
| 実施時期 | 通年(土・日・祝日および繁忙期は除く) |
| 料金 | 入館料のみ |

**うみファーム 食育体験「魚釣り」プログラム**
自然の海ならではの営みを体験できるうみファームでは、海にできた生簀で、初心者でも気軽に魚釣りを楽しめ、捕まえた魚はからあげにしてご提供します。自分で捕まえた魚を食べる「いのち」をいただくという「食育」を体験いただけます。

| | |
|---|---|
| 対象 | 小学生以上(保護者および教職員の付添いが必要) |
| 定員 | 100名 |
| 所要時間 | 約30分間 |
| 実施時期 | 通年(土・日・祝日および繁忙期は除く) |
| 料金 | 500円(入館料別途) |

**アクアスタジアムレクチャー**
水族館の生きものについてや、飼育係という職業についてなど、水族館に関するさまざまな質問にスタッフがお答えします。「海の動物たちのショー」の会場でマイクを使用して行いますので、大人数の団体さまにもご利用いただけます。

| | |
|---|---|
| 対象 | 小学生以上 |
| 定員 | 300名 |
| 所要時間 | 約20分間 |
| 実施時期 | 通年(土・日・祝日および繁忙期は除く) |
| 料金 | 入館料のみ |

このほかにも、楽しく学びながら体験できる場を幅広くご提供するプログラムをご用意しております。ご利用条件等、詳しくはお問合せください。［お問合せ］営業部 TEL:045-788-9632

動物取扱業に関する表示 ●氏名／株式会社横浜八景島 ●事業所の名称／横浜・八景島シーパラダイス ●事業所の所在地／横浜市金沢区八景島 ●登録に係る動物取扱業の種別／展示 ●登録番号／70－033 ●登録年月日／平成24年2月15日 ●登録の有効期限の末日／平成29年2月14日 ●動物取扱責任者／大津 大 ※天候および動物たちの体調により、イベント内容・展示が一部変更・中止になる場合がございます。※写真・イラストはイメージです。※ご来島の際は公共の交通機関のご利用が便利です。

海のエンターテインメン島
横浜・八景島シーパラダイス

年間3100校以上にご来県いただいている
信州・長野県への学習旅行は

(一社)信州・長野県観光協会は、長野県庁内に事務局を置き、国内外を問わず、長野県への学習旅行のご案内をさせていただいております。下記まで資料請求等お問合せをお待ちしております。

上記冊子「先生のための手引き書」（ワークシートつき、全32頁）を無料にて差し上げています。

お問合せ・資料請求先
(一社)信州・長野県観光協会
TEL:026-238-9670　FAX:026-232-3233
E-mail:gakushu@nagano-tabi.net
http://www.naganoken-gakushuryoko.net
〒380-8570（住所不要です）
長野県庁 1階